

スケールの 0.0002% linearity はフル・スケールの 0.05%) 等高性能の機器を使用し連続記録(第4図)と上層天気図(flight-level)を比較検討することによってかなり正確な大気の乱れ区域あるいはその機構を解明できると思われる。

最後に、大気中主として上層における乱流区域の予報問題をとり上げてみたいと思う。

高々度を飛行する機から CAT に関する報告は各国で実施されつつある。圏界面付近の高々度においてかなり激しい CAT が始めて報告されたのは Comet-II 型の実用化時代にさかのぼる。そして、この上層における CAT は地形の影響によるものよりもむしろ大規模な Jet 流と関連し起っていることが多く本質的には垂直方向の風の集束帯・温度場が主要な約割をはたしていると言われるようになった。1955年 USAF は高々度タービュレンスに關して一連の調査を行い、その結果 CAT は大気の強い

流れの北側やその軸の中心附近あるいはその下方で割合多く起っていると立証し注目をあびた、ごく最近筆者は BOAC のパイロットから Cirrus の後尾に突入した時には必ずと云ってよい位 CAT があると云っている。一方こうした乱流の機構、その原因については Richardson 等一連の乱流発達理論があり、これらの理論の展開によってある程度の乱れ区域の予報は確立されるが、その基礎となる広範囲、高々度までの資料や解析方法が不十分だし、現在のところどうしても統計的推定法による外はない、したがって、われわれが量的にその垂直ガスト成分なり区域なりを正確に予報するには Computer による航路別連続垂直断面解析を行うとよい、ともかく、これ等種々な問題から考へて乱れの区域の予報あるいは分類をする場合に機の性能を十分考慮しなければ無意味なものになる。

理 事 会 便 り (I)

第17回 常任理事会議事録

日 時 昭和36年7月14日(金) 16.30~19.00

場 所 神田学士会館

出席者 島山・正野・松本・神山・藤田・根本・宥住
・今井の各理事(順序不同)

決 議

1. 天気編集委員の吉野氏はドイツへ行くため代り

として藤井幸雄氏にお願いすることとなった。

2. 日中学術交流の顧問を島山理事にお願いすることとなった。
3. 毎日学術奨励金申請については研究グループに連絡をとり、あれば出すこととなった。

第18回 常任理事会議事録

日 時 昭和36年8月11日(金) 17.30~20.00

場 所 神田如学生会館

出席者 桜庭、島山、正野、吉武、松本、藤田、神山
根本、淵の各理事(順序不同)

決 議

1. 秋季大会を11月7日、8日、9日の3日間東京理科大学において行い、大会委員長に島山久尚

氏をお願いする。

2. 数値予報国際シンポジウムのプロシーディングについて次のように予定価格をきめる。

会 員 2,500円+郵送料

会員外 5,400円(15\$) 郵送料を含む

3. アメリカ気象学会の文献速報の資料提供については集誌編集委員で処理する。